

# 教育

✉edu@asahi.com

金曜～月曜掲載

## Dear Girls

# 私

### 物流の現場 直談判し体験

オープンスクールで来校者を案内する堀内妃さん 〓三田学園提供



甲府工業高校で生徒会長を務めた斉藤由姫さん 〓東京都江東区の芝浦工大豊洲キャンパス



自分の進路について考えるため、インターンシップの受け入れを会社に直談判した女子高校生もいる。

私立青稜高校(東京都品



川区)3年の青山奈々美さん(18)は、幼い頃から捨てられる食品が気がかりだった。「需要にあった製造販売ができていないのでは」と思い、大学で物流を学びたいと考えた。そのためにも、実際に職場の様子を見てみたかった。

秋元運輸倉庫の倉庫で、社員から荷物の手配量や方法について説明を聞く青山奈々美さん(右) 〓同社提供

が、物流会社の秋元運輸倉庫(港区)。昨年末、インターンシップに参加したい、とメールを送った。「自分が興味を持ったことを大事にしたいと思った」と同社マネジャーの坂田良平さん(47)によると、「高校生個人での申し込みは前代未聞」だという。

メールのやりとりを重ね、インターンシップは今年4月に実現した。春休み中の3日間、同社の倉庫で車用品の梱包を体験。取引先の化学工業メーカーも訪れた。秋元運輸倉庫の女性ドライバーが運転するトラ

ックに同乗し、運転手の点呼にも立ち会った。

「想像より多くのニーズにこたえていることに驚いた」と青山さん。物流に携わりたいという思いは、さらに強くなった。

一方、現場で働く女性の少なさも実感した。同社の社員約170人のうち、女性約9人。「女性の間で、物流の仕事の認知度をもっと高められたらいい」

目標は、少ない人手で多様なニーズに応えられる物流システムを構築すること。流通と情報工学を学ぶべし。大学を選ぶつもりだ。

「羨ましいな。私も女子大生。そういう思いに男女差はない。10代の女の子たちには、自分の中の『好き』を大切に、どんどん自分を出していいしてほしいです」